

東京交通短期大学 同窓会会報

第46号・令和5年7月発行

発行責任者 武田 浩一
編集長 岡 幸雄
編集 岩井 優太
小澤 梓



新時代への躍動

同窓会長

41回生 武田 浩一

まずは、短大が開校70周年を迎えましたことをお祝い申し上げます。少子化の中、母校が脈々と歴史を刻むことを大変喜ばしく思います。

しかし振り返れば、新型コロナウイルスも感染症の分類が5類へ引き下げとなり、人の動きが活発になるも、失われたこの約3年間の代償は大きいといわれています。

身近では、短大の70周年の記念式典はコロナ禍であったことから60周年の式典みたいな大勢の招待はなかった式典でしたが、実施されたことに関しては喜ばしく思っております。

その記念式典が執り行われた場所が、かつて旧校舎があった土地に新しくできた新6号館でした。図書館、鉄道シミュレーター、そして我々の馴染みも深い丸の内線車両もその新6号館の敷地内に收藏されました。これをお読みの方で新校舎を見られていない方が大半と思われそうですが、東交祭の機会などでぜひ訪れてほしいと思います。

交通業界は、ゴールデンウィークなどをみてとれるように、かつてのように人の移動が戻って参りました。最近のイベントでは、サッカーW杯やWBCが大いに盛り上がりました。もし叶ったら、東京オリンピックをあの盛況の中で迎えていたらと想像を膨らました次第です。

そこで、交通業界にもそんなニーズに応える動きとして、波動輸送やイベント実施などの活性化が見られて今までの自粛を強いられた状況がどんどん打破されて、かつてのように移動やイベントを楽しむ様相が戻りつつあります。

交通業界の諸問題として、人手不足やコスト高も顕著になり省力化・効率化も進められ、完全AI化までとはいかずとも、デジタルによる対応を各会社が提供する動きもあります。

現行の鉄道現場をみるとみどりの窓口をはじめとする、ICカードのモバイル化や窓口案内の集約、一部AIによる窓口案内、リモート化を行っている場面もあります。地方については、利用者減少により赤字経営が続くローカル線の進退が議論されております。夜勤を敬遠するなどの理由で人材確保が難しい鉄道業界では、ワンマン化や果ては無人運転も検証されております。今後の国内の交通の在り方の変化は目まぐるしくなることでしょう。

人材といえば、トラック・バスなどの自動車業界の人材不足は今後切迫するものと言われております。運輸インフラ確保のために、課題は多いですがモーダルシフトの動きが必要とされております。

鉄道イベントで定番のスタンプラリーでも、紙にハンコを押すものだけでなく、現地でスマホにてQRコードを読んで記録したり、モバイルのGPSを活用して行った場所を記録したりするものもあります。終電初電のハンコの片づけやメンテが不要で、ポスター 掲示、またユーザーのモバイルだけで完結されるものなど、時代の移り変わりと省力化も兼ねた新しいものが導入されております。

そして鉄道路線の新しい話題としては、西九州新幹線の開業や相鉄線と東急線が新横浜へ乗り入れによる直通運転と東海道新幹線アクセスの向上など、明るいニュースも聞かれます。

また今後は、北陸新幹線の敦賀延伸や羽田空港へアクセスするJR線の新線開業工事が予定され、利便性の向上が期待されます。時間的コストはますます減ると思われ、移動時間短縮によるビジネス、観光に使える時間が生まれる事が楽しみです。

そんな各交通業界の動向や、交通業界で勤務をしている当会役員などの同窓会生が実体験していることについては、年数回行われている定例会で雑談交じりではありますが、精力的に意見交換をしております。詳しくはこの会報後半にある「ライン公式アカウント」で連絡を差し上げて、参加希望者には「メール」でご案内しております。

その定例会の場では、かつて実施していた貸切列車のイベントも、主に中小各鉄道会社の貸切列車実施の募集状況をみながら実施を検討してまいります。

なお昨年は、ライン公式アカウントなどでも募集し、10月にコロナ感染に注意しながら実施したバスツアーは、盛況のうちに無事に行えました。

このように今年からの同窓会は、コロナ前の活動を取り戻すべく精力的に運営してまいります。活動につきましては、皆様のご協力をぜひともよろしくお願いいたします。

そして短大は70年の歴史を刻みました。昨年も執筆いたしました70年があくまで通過点として、今後も短大が社会で躍動する人材を紡いでさらなる発展をしていくのを楽しみにしております。

創立70周年を迎えて

学校法人豊昭学園 理事長
東京交通短期大学 学長

中野 潤

令和4年11月15日に東京交通短期大学「創立70周年記念式典」を本学園のラーニングセンター(新6号館)「コネクションホール」にて挙行政致しました。

このラーニングセンターとは、旧東京交通短期大学跡地に竣工(令和4年8月30日)された新校舎のことです。本学園のさらなる成長と発展をコンセプトとしたものであり、これからの教育に欠かせない「深い学び」と「特色ある教育」ができる施設「ラーニングセンター」として位置づけられています。1階には図書室と丸の内線旧車両を展示し、2階には新シミュレーター室、3階・4階は約500人(固定席)収容可能なホール「コネクションホール」となっています。

この新校舎で開催された式典では、元同窓会々長 川島一郎様ご紹介の 株式会社JR東日本クロスステーション 代表取締役社長 西野史尚様にご講演をお願い致しました。講演のテーマは「鉄道とは。安全とは。」その内容は、本学学生への将来へのメッセージとも受け取れる大変有益なものであり、「社会に有用な人材を育成する」という本学の教育目標は、実学教育をもって形成されるものである事を改めて認識させられるものでした。

東京交通短期大学は、元逓信省 鉄道局 運輸局長 鉄道次官を歴任された中川正左先生と元国鉄上野営業事務所 運輸従業員教習所 教務主任 寄宿舍寮長として鉄道従事員教育に深くかわり続けた亀川徳一先生。両先生によって「鉄道従事員教育の更なる高等教育機関の設立」を目指し70年前に開学されています。

両先生が共に鉄道界出身であり、鉄道を愛する人物であったからこそ鉄道教育に情熱を捧げる人生を送られたのだと思います。

中川先生、亀川先生の遺志は、令和の今でも引き継がれており、学校は熱意と愛情によって支えられています。本学の発展は校舎や教育だけでは成り立ちません。現在においても、本学同窓生の皆様がそれぞれの社会でご活躍され、その使命を果たされていることで本学の社会的な評価が高められております。併せて、本年度の日本私立大学短期大学協会による認証評価において「適合」の評価を取得し、学校法人 豊昭学園 東京交通短期大学は更なる発展を目指して参ります。同窓会の皆様には、これからも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

東京交通短期大学創立70周年記念式典の挙行について

2022年11月15日に、70周年記念式典が旧校舎に位置するところに新たに完成した講堂を擁する新6号館(ラーニングセンター)にて新型コロナウイルスまん延の中であるため前回の60周年記念とは、出席者や内容を変えて執り行われました。

中野理事長の70周年のお祝いとお新講堂完成についてのご挨拶がありました。

同窓会からは、川島顧問が短大の歴史を紐解きながら学校の発展や同窓会活動に尽力いただいた方々の感謝を伝える挨拶をいただきました。

また、特別講義といたしましてJR東日本クロスステーション社長が「鉄道の仕事とは。安全とは。」について新講堂の壇上にて行われました。

新6号館の設備紹介で新しい鉄道シミュレーター、図書室、州のされた丸の内線車両などを見学しました。

9月の東交祭や学校近くにお立ち寄りの際は、旧校舎の跡地に建つラーニングセンターをご覧ください。



令和4年度事業報告

副学長 高橋 真悟

同窓会の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜りまして、誠にありがとうございます。

令和4年度の短大の事業報告をいたします。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から脱していく1年となりましたが、この状況の下で、主に下記の施策を講じることにより、本学のさらなる発展に取り組みました。

【学生募集】

(1) 安定的経営のための入学者の確保

2年連続で定員割れに陥らないよう、以下の学生募集対策を実践し、定員80名を上回る91名の入学者を確保することができました。第1は、イベントの工夫で、オープンキャンパスを進路決定期に前倒しで実施したり、オンライン体験入学会を実施したりしました。第2は、高校訪問の再開で、本学指定校や鉄道研究部がある高校に対して、主に入試委員長が高校訪問を実施しました。第3は、併設校との連携強化で、昭和鉄道高等学校の生徒に対して、YouTubeによる鉄道系特別教養講座の配信や入試における特別選抜用の規程を整備しました。

(2) オンライン入試と女子入学者確保のためのイベントの実施

コロナ禍においても遠方の受験生を確保するため、総合型選抜の一部において、対面受験とオンライン受験を受験生が選択できる形式で実施しました。一方、オンラインも合わせた体験入学会とオープンキャンパスの参加者合計は、前年度の391名から595名と大幅に増加しました。イベントにおいては、女性教員による女子生徒の相談コーナーを設けたりしましたが、令和5年度の女子入学者は4名にとどりました(令和4年度は0)。

【教育活動】

(3) 卒業後の選択肢を増やすカリキュラムの実現

入学者選抜・入学前教育・入学後の授業の連携を強化するため、短期大学の2年間の教育を2年6ヵ月教育になるよう、入学前教育(とくに日本語能力)を強化しました。また、工学・交通IT系教育を拡充するために、「鉄道数学」を開講するとともに、保線技術者2名(旧国鉄系・民鉄系)を「特別教養講座」講師として招聘したり、希望者によるJR貨物(隅田川駅・隅田川機関区)の1日就業体験を実施したりしました。さらに、編入学試験対策を強化するために、指定校推薦を早めにサポートし、過去最大の8名を合格させることができました。

(4) 学内DXへの取り組み

遠隔授業を正規の授業の一部とし、「鉄道工学」をこの方式で実施することにしました。これにより、遠方の教員や企業内研究者を非常勤講師として確保することが可能になりました。一方、学内情報(面談結果・就活状況等)の共有を図るために、Googleスプレッドシートの活用をこれまで以上に進めました。

【キャリア支援】

(5) 個別就職支援の実施

①1年次の基礎ゼミ担当教員による面談、②キャリア支援担当教員による面談、③2年次の専門ゼミ担当教員による面談という3ステップの面談を実施して、個別就職支援を継続しています。また、キャリア支援室に教員が常駐する時間を増やし、サポートを充実させました。

(6) 指定校推薦による編入学の強化

編入学指定校との連携を強化するために、流通経済大学から単位認定表をもらうことを取り決めました。また、新たに文京学院大学から指定校をもらうことができ、新規の指定校を開拓することもできました。

【施設・設備】

(7) 防災教育

現校舎での避難訓練として、後期ガイダンス時に1階大教室1への避難訓練を実施したほか、教職員の防災教育として、夏休みに池袋防災館で体験学習を実施しました。

【その他】

(8) 第3クールの認証評価に向けた取り組み

大学・短期大学は7年間に1度は第三者による認証評価を受けることになっています。本学は前回平成28(2016)年度に訪問調査を受けたので(評価対象は平成27年度)、今回令和5(2023)年度に訪問調査を受けることを決定しました(評価される対象年度は令和4年度)。このため、全教職員ならびに法人関係者(財務担当理事・事務長)による自己点検・評価活動全体会議を計13回開催して自己点検・評価報告書を作成し、令和5年秋頃に第三者の評価員による訪問調査を受ける予定です。

(9) 創立70周年記念事業の実施

令和4年度に東京交通短期大学は創立70周年を迎えました。これを記念し、11月15日(火)に、豊昭学園新6号館コネクションホールにて記念式典を挙行了いたしました。当日は全学生と教職員参加のもと、中野理事長・学長による挨拶の後、川島一郎元本学同窓会会長による来賓祝辞をいただき、JR東日本クロスステーション代表取締役社長の西野史尚さまによる講演会(講演内容:「鉄道とは 安全とは」)を実施いたしました。

以上になります。前述したとおり、令和5年度は第3クールの認証評価を受ける年となりました。東京交通短期大学が短期大学として「適格」であるという評価を得られるよう、教職員一同、努力して参ります。

令和4年度 東京交通短期大学学事報告

学科長 小宮 全

東京交通短期大学学科長の小宮全です。私から令和4年度の学事報告をさせていただきます。

1. 新・退任教職員について

【退任教員について】 令和4年度をもって、以下の先生方が退任されました。

(専任教員)

松山周一専任講師

(非常勤教員)

青木言葉講師

有馬貴之講師

中村成美講師

中村陽一講師

藤井大輔講師

真中今日子講師

山口るみ子講師

ご退任された先生方の、短大への尽力に感謝すると共に、今後のご活躍をお祈りいたします。

【新任教員について】

令和5年度より、以下の先生方が新たに赴任されることになりました。

(専任教員)

宗像俊輔専任講師

(非常勤教員)

玉置文弥講師

井上貴也講師

李志揚講師

大野俊尚講師

山崎哲講師

田中奏夕講師

押立貴志講師

武藤雅威講師

藤野俊和講師

山本尚樹講師

遠藤俊太郎講師

各先生方の専門分野で培われたご経験を生かされてのご活躍を期待したいと思います。

2. 学校行事について

令和4年度の学校行事に関しては、一部制限は残りましたが入学式・卒業式共に対面にてコロナ禍以前と同様に実施いたしました。学外レクリエーションは十分に感染対策をしたうえで、JR東日本 都区内パスを使ったオリエンテーリングを実施しました。授業は原則対面で実施し、少しずつではありますが、これまでの日常を取り戻しつつあります。また、オープンキャンパス・体験入学会や東交祭は感染症対策を講じたうえで、予約制で開催いたしました。その他、8月には新6号館(ラーニングセンター)が竣工され、11月には新6号館のお披露目を兼ねた70周年記念行事が開催されました。同窓会からは川島一郎先生、半沢貞夫先生、武田浩

一先生にご出席いただきました。3月は、「鉄道博物館」の貸し切りイベントの開催と卒業式(ホテルメトロポリタン)を挙行いたしました。卒業式では、保護者の方にはホテル内の別室で参列いただき式のライブ配信をご覧いただきました。なお、卒業式には、同窓会会長の武田浩一先生にご臨席いただき、ご祝辞を賜りました。同窓会役員の方の学校行事へのご協力に感謝申し上げます。

3. 時間割について

令和5年度の時間割と特別教養講座カリキュラムが別表※のように決まりました。令和5年度から新たに「交通中国語」が配置され、語学系科目も充実してきました。特別教養講座につきましては、引き続き、元同窓会会長の川島一郎先生、前同窓会会長の半沢貞夫先生、同窓会会長の武田浩一先生、同窓会役員の小澤梓先生に講義を依頼しております。

4. 専門ゼミ紹介

2023年度は次の6つの専門ゼミが開講することになりました。鉄道史ゼミ(大野絢也先生)、交通文化論ゼミ(濱雄亮先生)、交通情報論ゼミ(小宮全先生)、交通倫理学ゼミ(田島樹里奈先生)、交通人間学ゼミ(佐古仁志先生)、経済政策論ゼミ(高橋真悟先生)。2年生は必ずゼミに所属をし、教員の指導の下、研究をし卒業論文を執筆します。12月末には各ゼミの代表者が専門ゼミ発表会で成果を発表します。各ゼミの詳細に関しては、ガイドブックをご覧ください。

※編集部より:特別教養講座カリキュラムおよび時間割は短大ホームページ「在学生の方」→「時間割」「特別教養講座」のページをご参照ください。

時間割: <https://toko.hosho.ac.jp/timetable.html>

特別教養講座: https://toko.hosho.ac.jp/special_lecture.html

2022年度就職状況及び 2023年度就職支援

キャリア支援室 栗原 圭二

同窓会の皆さま、本学キャリア支援室でお世話になっております栗原と申します。同窓会の皆さまには、就職支援の一環としての出張講義や後輩へのアドバイス等におきまして、大変お世話になっております。

2022年度就職状況についてですが、卒業生98名に対して就職希望者81名であり、78名が就職先を確定し卒業いたしました。進学希望は7名であり四年制大学へ編入しております。

2022年度は、JR4社に8名、JRグループに10名、首都圏の私鉄に4名、東京都交通局に1名、横浜市交通局に2名、東京都営交通協力会に6名など鉄道企業就職が39名となりました。黒部峡谷鉄道や錦川鉄道等の地方の鉄道会社にも入社しております。今年度以降も鉄道会社に入りたい学生の思いを大事にしていきたいと思っております。

2023年度は、昨年に引き続き、就職活動スタートについては3月、選考開始は6月となっております。しかしながら2020年からの新型コロナウイルス感染症の影響で、鉄道会社の多くが運輸職において採用人数を大幅に減らしており、運輸職を採用しない会社も目立ちました。そのような環境の中、近年の傾向として、保線や車両等の鉄道技術職を希望する学生も増えてきております。2023年4月には小田急エンジニアリング・ジェイアール四国メンテナンスに入社しました。

今年度は昨年度に引き続きキャリア系授業をさらに活用させていただきます。2020年からの新型コロナウイルス感染症の影響で、企業への応募方法や選考方法に変化が生じてきました。インターネットを通しての応募(エントリー)による紙の履歴書・エントリーシートの廃止やWeb面接の実施等です。5月8日からコロナ感染症が5類になりましたが、このような流れは今年度も継続しているようです。採用方法の変化にも対応できるように指導していきます。また、昨年はインターシップを横浜市交通局・関東鉄道・東急トランセ・日立自動車交通等で実施していただきました。ご協力ありがとうございました。

同窓会の皆様とは、就職支援の観点からもぜひ後輩に対していろいろな経験談をお話いただけると幸いに思っています。今年は9月後半までに大手企業の採用が決まっていくと思いますので、東交祭などにお越しの際はぜひキャリア支援室にお立ち寄り、進路についての疑問質問をお気軽にしてください。また、ぜひ求人があればお声がけいただければ幸いです。

最後に、2022年度就職・進学状況について簡単に報告させていただきます。2022年3月卒業生98名中、交通関連企業へ52名(昨年同時期47名)、一般企業26名(昨年同時期25名)、進学7名(昨年同時期13名)という状況でした。(4月30日現在)

鉄道関連の就職先は次の通りです。

【鉄道関連企業別内定者数】

東日本旅客鉄道 1名(昨年無)
東海旅客鉄道 1名(昨年1名)
北海道旅客鉄道 4名(昨年5名)
日本貨物鉄道 2名(昨年3名)
ジェイアール四国メンテナンス 1名(昨年無)
新幹線メンテナンス東海 1名(昨年1名)
JR東日本ステーションサービス 6名(昨年1名)
JR高崎鉄道サービス 1名(昨年2名)
ジェイアール貨物・東北ロジスティクス 1名(昨年無)
京浜急行電鉄 2名(昨年1名)
小田急エンジニアリング 2名(昨年無)
東急セキュリティ 1名(昨年無)
舞浜リゾートライン 1名(昨年無)
神奈川臨海鉄道 1名(昨年無)
関東鉄道 1名(昨年1名)
筑波観光鉄道 1名(昨年無)
黒部峡谷鉄道 1名(昨年無)
富山地方鉄道 1名(昨年無)
錦川鉄道 1名(昨年無)
東京都交通局 1名(昨年1名)
横浜市交通局 2名(昨年1名)
東京都営交通協力会 6名(昨年10名)

令和5年度入試報告

入試委員長 濱 雄亮

令和5年度入学者を選抜した入試(令和4年度実施)は、志願者数のべ107名、合格者数93名、入学者数91名でした。入学者は定員の80名を10名以上上回り、定員充足率は113%となりました。昨年度と比べると志願者は11名、入学者は13名増加し、令和4年度の2名の定員割れを埋めることができました。

この状況の分析の前に、令和4年度入学者の定員割れを受けて昨年度の本稿で申し上げたことを振り返ります。昨年度、定員割れの打開策として、①イベントの強化・②高校訪問の強化・③イベントの予約制の継続(による安心感の確保)の3点を挙げました。以下では、これらの対策の効果やその他の要因について検討いたします。

対策①は、実施できました。同窓会のみなさまには「特別教養講座」へのご登壇のご協力を賜り、誠にありがとうございます。就職後のキャリアパスが明確になりますので、効果を感じております。

対策②も、効果がありました。定員割れとなった令和4年度入学者を選抜した令和3年度は、高校訪問は32校のみでした。これは、訪問すると感染リスクを感じられて逆効果かもしれないと考えたためです。しかし令和3年度の訪問時の感触からは、感染症を理由とした訪問の拒否はほぼありませんでしたので、定員割れが確定した令和4年度は170校を訪問しました。コロナ直前の平成34年・令和元年度の訪問校数は112校でしたので、その時期と比べても1.5倍増です。しかしむやみに訪問するのではなく、イベント参加者がいた高校・近年進学者が増えている工業高校・鉄道研究部がある高校などを、戦略的に選びました。指定校でない高校では先生が本学のことを知らないで、本学への進学を希望する生徒がいても「そこに進学させて大丈夫だろうか」と不安を抱きかねません。そうした不安を解消し、安心して生徒に本学受験を勧めてもらえるよう、指定校ではないがイベント参加生徒がいた高校も訪問しました。また、広報委員会と連携して高校内説明会の企画をする会社との関係を強化し、校内説明会参加回数を大幅に増やしました。こうした諸戦略が功を奏したものと考えます。

対策③は、イベント予約時に在籍高校の名前や学年を入力してもらっているので、イベント前にメールを送ることや高校訪問することが可能になっています。これも、予約制を導入した当初の意図とは異なりますが、一定の効果をもたらしたものと捉えております。

他には、高校訪問の早期化と、鉄道会社の求人数の回復があります。高校訪問の早期化は、高校生の進路決定時期の早期化を受けてものです。これは、高校訪問で高校の先生に話を聞いて実感したものです。令和4年度の定員割れは、私たちが高校生に本学のことをアピールしていた時期には、すでによそに決めた後で遅かったことに起因していたのかもしれませんが。鉄道会社の求人の回復は、このことをイベントや高校訪問時に言えるようになったことで効果につながっていると考えております。

以上のことを勘案いたしまして、今後も高校訪問の早期化やイベントの強化、高校生の進路選択の傾向の把握などを継続・強化してまいります。

なお、日本の短期大学志願者数は引き続き減少しております。日本私立学校振興・共済事業団によると、令和4年度に定員割れをした短期大学は昨年度に引き続き239校、短期大学全体の85%を超えています。こうした短期大学全体の逆境の中、本学は令和4年度でも定員充足率97.5%、令和5年度は113%でした。やはり本学は短期大学全体の中で非常に安定的に入学者を確保できている短期大学です。今後も本学の強み、すなわち、鉄道・交通を学んで学位を取得できる唯一の高等教育機関であること、コロナ禍でも高い就職率を維持していることなどをより一層充実させそれをアピールしてまいります。今後とも同窓会の皆さまのご協力とご叱正を賜りますようお願い申し上げます。

— 会 員 解 放 区 —

「初めてのバスツアーを終えて」

40回生 雨宮 豊

東京交通短期大学同窓会では、卒業生や在校生とのコミュニケーションの一環として、東交祭への出展や貸切列車イベント等を行ってきましたが、今回趣向を変えて、貸切バスにて群馬県「碓氷峠鉄道文化むら」「めがね橋」を見学するツアーを2022年10月22日(土)に行いました。今回は知人のバス会社を利用し、ドライバーも務めていただきました。申し込みの際は乗降場所や休憩場所等、念入りに打合せを行いました。乗務員1名での乗務可能距離や拘束時間等も交えながら申し込みを行い、バス事業の大変さを理解することができました。また、当日利用した車に搭載されていた、非常ブレーキボタンについても説明をして頂き、非常に勉強になりました。碓氷峠めがね橋では、旧線路跡がアプトの道として整備されており、鉄道の難所を想像しながら散策を楽しみました。また、碓氷峠鉄道文化むらでは、懐かしの鉄道車両を間近で見学、線路跡を走行する「峠のシェルパくん」への乗車や、峠の湯で入浴等、皆様自由に過ごされていました。期間限定で展示車両の近くに泊まれる、オートキャンプイベントも行っており、集客に努力されている一面もみられました。

往復のバス車内では、交通・観光関係の話題を中心に同業の話題で情報交換をしましたが、車窓に鉄道関連の物が見えれば全員そちらを凝視、さすが同好の士といった場面もあり、交流を深めることができました。

大変有意義なバスツアーでしたが、在学生の皆様にもご参加いただけるような日程を組むことができなかったこと等、反省点も多々ありましたので、振り返りを行い、次回のイベントに活かしてまいります。次回以降のイベントへのご参加を心よりお待ちしております。



ふるさと秋田で運転士を目指して頑張っています！

56回生 信田 修

短大卒業後、東武ステーションサービス株式会社へ入社、駅務係として約14年、東武鉄道の駅員として働かせていただきました。近年は短大卒業生の入社も増え、とても嬉しかったです。坂戸、つきのわ、川越市、みずほ台と東上線が長かったのですが、最後の職場は東武栃木駅でした。東武はとても家族的な会社で、最後まで楽しく働くことができました。

今年の3月、ふるさと秋田にある秋田内陸縦貫鉄道へ入社、現在は角館駅で働いております。秋田内陸縦貫鉄道、通称秋田内陸線は秋田県及び沿線自治体等が出資する第三セクター会社になります。旧国鉄阿仁合線と角館線を引き継ぎ、1986年に開業した路線で、1989年に両線を結ぶ新線が開業、全通した94.2キロの非電化路線になります。僕の生まれたのが全線開業の年の1989年3月13日。内陸線への入社が3月13日。いろいろな縁を感じております。入社式では本社の皆様からお祝いのお言葉をいただきました。そんなとても雰囲気良い小さな会社です。

今年は東京から、鯨井君(東京生まれ東京育ちの都会っ子)が自然豊かな秋田で働きたいと入社しました。彼も鉄道大好き青年で、いつも一緒に鉄道トークを楽しんでいます。18歳と34歳の新人であります。知り合っただけの頃、内陸線のためにいすみ鉄道で働いている親友と何かしたいという話を聞いていました。地縁血縁もない彼が大好きな秋田のために頑張ろうという姿を見て僕も嬉しくなり、僕からも社長に話をしました。すぐに話は決まり、今月からいすみ鉄道とコラボすることになりました。両社の列車におもしろい中吊りを掲出しています。

現在、キャンペーンで貸切列車の半額やリピーターチケットの配布などを行なっています。貸切は25000円から。いかがでしょうか。今年も仲間とヘッドマークを作って楽しむ予定です。

田んぼアートもとてもきれいです。秋田はいいところですよ。
ぜひ、乗りにいらしてください。お待ちしております。



趣味としての鉄道

67回生 藤原 健多

平成18年ごろ、地元千葉県の房総各線では113系が日常的に走っていた。当時の私は6歳前後であり、鉄道への興味を持ち始めた。また、鉄道の本が私の教材でもあった。幼稚園児には難しい漢字でも、行き先で使われている漢字であれば、一生懸命勉強した。「ケンタ君は大きくなったら電車の運転士さんになるんだね！」と周りの人たちから言われていた懐かしい記憶である。

あれから10年の月日が流れ、高校生の私は将来の進路について本格的に考える年代となった。鉄道員を目指すべきか、大学へ進学して幅広く進路を考えるべきか。当時の私はまだ17歳であり、それを判断できるほどの人生経験が無かった。そこで、短大生の私に対して、その判断を委ねることにした。

平成30年4月、私は晴れて短大生になった。入学した後の会話が、それぞれの好きな路線や車両に関する内容であり、とても安心した思い出である。先輩方との良いご縁にも恵まれ、今まで知りえなかった知識や経験を積むことができた。その年の9月、とある先輩が「金の言葉」をおっしゃった。

「鉄道会社は志望者に対して、鉄道ファンで居てほしいと考えている。なぜなら、それで居てくれた方が会社にお金が入ってくるから。逆に鉄道員として雇った場合、会社からお金を出さなければならぬ。」

私はその言葉に対して、大きく感動を受けた。その言葉を元に、鉄道会社で働くことができる人物像について考えた。当時の私は学内での部活動のみならず、学外での学生団体やインカレサークルでも活動しており、様々な価値観と触れ合う時期でもあった。

その後の私は四年制大学へ編入学し、一般企業へ就職した。時折、鉄道員として活躍する同期の姿を見て、羨望のまなざしを向けてしまうこともある。しかし、趣味としての鉄道も有意義なことである。短大時代に得られた人間関係は、同じ趣味を共有できるという恩恵もあり、今も活きている。これからも、趣味としての鉄道を愛好して行きたいと考える。

学生生活を楽しむ 現役学生のクラブ活動紹介！

今年度も、コロナ禍もあり、以前に比べるとクラブ活動に学生が入っていません。今後、個別に活動していくことを期待しています。

鉄道研究部

8月のオープンキャンパスと東交祭の鉄道運転会に向けて準備が進んでいます。レイアウト研究やジオラマ製作するための短大周辺の実地見学もしながら作り上げていきます。ぜひ、東交祭にお越しいただきご覧ください。

図書部

図書部便りの発行や東交祭でのバックナンバーの配布などを行っています。学生推薦の選書も行いながら活動していきます。約18000の書籍、DVDを司書の方のお手伝いをしながら維持しています。

学生会

東交祭、オープンキャンパス、交通見学会など本学にはたくさんのイベントがあります。これらのイベントに学生の意見を取り入れたり、日々変化する学内の状況に学生の意見を取り入れていきます。

ボウリング部

まだ、2年生だけで活動しています。1年生の部員も大募集中です。現在は、第二、第四金曜日にいつもの池袋口サボウルで午前中練習しています。プロボーラーを輩出した部として、今後も、練習に励んでいきます。

旅行部

学内にて旅行相談の無料相談や総合旅行業務取扱管理者資格の取得に向けて活動しています。今後もツアープランニング情報を収集し、自分たちも旅行に行きたいと考えています。

※今年は、新規で「交通eスポーツ同好会」が発足しました。

※野球部、音楽部、写真部、ソフトテニス部も、部員募集中です。

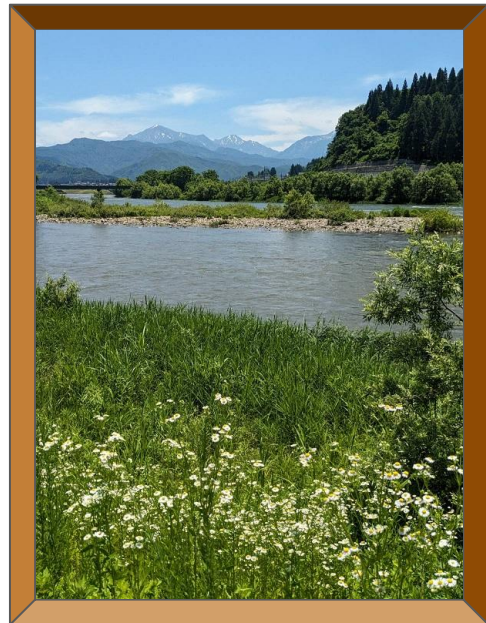
* とうこう写真館 *

「東交」OBによる写真「投稿」コーナーです！

56回生 F
「お出かけ」



13回生 川島 一郎
「只見線魚野川橋梁と八海山風景」



58回生 松本 真之介
「サフィールが往く」



<写真募集>

「とうこう写真館」を飾る素敵な写真を募集します！

- ①テーマ:「自由」※鉄道写真でなくてもOKです。
- ②寄稿の方法:会報44号をご覧ください。
- ③ガイドライン
 - ・画像のファイル名のどこかに投稿者の名前を入れて下さい。(例:20210101山田太郎.jpg)
 - ・被写体の顔が認識できる写真は投稿者本人の責任において掲載の許可を取ってください。
 - ・ガイドラインも必ずお読みください。
- ④締切 2024年4月末日

会 計 報 告 書

(2022年度)

2023年4月1日

東京交通短期大学同窓会

(2022年4月1日～2023年3月31日)

収入の部				支出の部			
項目	区分	金額	摘要	項目	区分	金額	摘要
繰越金	A	179,106 円		集会費	イ	215,695 円	バスツアー、役員懇親会、懇労会
会費	B	490,000 円	5,000円×98名	事務費	ロ	0 円	
臨時会費	C	72,000 円	バスツアー参加費	通信費	ハ	870 円	資料送付代
寄付金	D	6,650 円	非役員OB	渉外費	ニ	1,155 円	卒業生記念品
雑収入	E	4 円	利息	会議費	ホ	43,432 円	役員打合せ、交通費等
				雑費	ヘ	5,560 円	同窓会室備品、東交祭備品
				繰越金	ト	481,048 円	
収入計		747,760 円		支出計		747,760 円	

この報告書は検討の結果、その収支は正当かつ妥当であることを認めます。

2023年4月1日

会計監査 堀 文 夫 (印)

会計監査 八木橋 孝尚 (印)

個人情報の取り扱いについて(概要)

2011年3月8日
東京交通短期大学同窓会

1. 法令その他規範の遵守、個人情報の保護及び取り扱い
 2. 適正な手段による個人情報の取得、利用又は提供
 3. 個人情報の訂正・削除・開示等の対応
 4. 個人情報の更新
 5. 個人情報のセキュリティ
 6. 個人情報の今後の取り組みについて
- ※詳しくは、会報42号の最終頁をご覧ください。

同窓会からのお知らせ

【短大同窓会 役員募集について】

今回会報を作成するにあたり、マンパワーの不足が課題となりました。また、貸切列車企画や東交祭のお手伝いもぜひ協力をいただきたいと思っております。

そこで、同窓会活動の主幹となる役員をひろく募集します。遠方などにいらしても、出来る場合がございます。

編集・催事・意見要望の対応などを学ぶ機会が、数多くあります。

まずは定例会に参加していただければと思います。

会長 武田浩一

【公式LINEアカウント開設】

同窓会ではこの度「公式ラインアカウント」を作成いたしました。

東交祭や貸切列車、定期的に行う会合「定例会」のお知らせを配信しております。

「@733mbeib」で検索いただくか、右のQRコードを読み込んで登録してください。



【登録住所の変更・問合せについて】

住所、氏名の変更等についての連絡は、同窓会のメールアドレス

「tokuouob@gmail.com」へお知らせ下さい。変更等の対応を行います。

※学校側の負担軽減の為、連絡は **原則として** メールをご利用ください。

メールの利用が困難な場合は、巻末の住所宛にはがき又は封書にてご連絡ください。

※なお会員本人死亡の通知は電話でも受け付けます。ご遺族がご連絡下さい。(短大事務局:03-3971-4704)

【会報の発行について】

44号より、会報は **オンライン発行** に切り替わりました。短大ホームページからご覧ください。

公開開始日については、メール、公式ラインまたは短大HPにてお伝えします。

E-mail: toukouob@gmail.com 公式Line: @733mbeib 短大HP: https://toko.hosho.ac.jp/

次号は2024年夏頃の発行を予定しております。

「会員解放区・投稿ガイドライン制定」について

会報44号発行時に、それまで不文律であった会員解放区の投稿フォーマットを明文化すると共に、リニューアル後の取扱いに合わせる形で「ガイドラインVer.0」を掲載しました。

今般、昨今の情勢や会報の発行形態を鑑みて、ガイドラインを改めて制定しました。

主な改正ポイントは「顔写真と勤務先名の掲載撤廃」と「匿名・イニシャルでの投稿受付」です。

匿名にして無責任な投稿が増えるのでは？との懸念も一部役員からありましたが、掲載差し止めの明文化や、編集部側に卒回・卒年と本名を明かす事により投稿者に責任を負って頂く事とし、匿名化に踏み切りました。

【会員解放区・投稿記事について】

・会報はインターネット上で公開されるため、寄稿される内容については、会員および会員が所属する会社・団体や周囲の方に対して、公開可能な範囲の情報を記載していただくようお願いします。

お勤め先がソーシャルメディアポリシーを定めている場合、それに従って寄稿してください。

・同窓会会員の個人情報の取り扱いについては「個人情報の保護に関する法律」に基づき保護に努めます。

・46号より顔写真および勤務先名は掲載いたしません。勤務先名を知らせたい場合は本文中に記載して下さい。

1. テーマ

<文章>「自由」※800字程度が理想ですが多くても少なくても構いません。

<写真>「自由」※鉄道写真でなくてもOKです。

2. 寄稿の方法

下記の①または②いずれかの方法にて、**デジタルデータ**での提出をお願いします。

①同窓会メールアドレス(toukouob@gmail.com)へ送付。

②返却不要のメディア(CD-R等)にコピーして郵送。

※送付先は巻末をご参照下さい。

3. 投稿フォーマット

・タイトルに続いて氏名、卒回を記入してください。写真の場合はメール本文に記載するか、テキストデータにて別途添付して下さい。

・匿名やペンネーム、イニシャルでの掲載も受け付けます。希望する場合は名前の後ろにペンネームや「匿名希望」、「イニシャル希望」と記載して下さい。

※匿名希望でもファイル管理に必要ですので、**必ず**卒回或いは卒業年と本名を記載して下さい。

・「校正」はしますが「校閲」はしません。

→明らかな誤字脱字は編集部で修正しますが、内容についての保証は投稿者の責任です。

・投稿者の職場紹介から逸脱した特定の商品・サービスの広告および宗教団体・政治団体等への勧誘や、いわゆるステルスマーケティングに該当する物の他、**編集部が不適切と判断した記事は掲載を見送ります。その際、投稿者への通知は行いません。**

→「仕事で●●を売っています」程度ならOKですが「●●を特別価格△△円で売ります」はNGです。

→卒回または卒業年、本名が記載されていない文章も掲載見送りの対象です。

・広告を掲載したい場合、別途有料にて承ります。料金等は打合せの上決定します。

・会報発行後、投稿者に起因するトラブルが発生し、会報データの修正等を実施した場合、何らかの形で責任を取って頂きます。

・各種法令及び条例等に違反した内容や、公序良俗に反する内容は掲載しません。

→他人を盗撮した写真や、無許可で鉄道敷地内および他人の私有地に立入って撮影した写真はNGです。

・当然ですが法人や個人への誹謗中傷は禁止です。

【写真の投稿について】

・画像ファイル名のどこかに投稿者の名前を入れて下さい(例:20210101山田太郎.jpg)

・被写体の顔が認識できる写真は、投稿者本人の責任において掲載の許可を取って下さい。

東京交通短期大学同窓会会則

第一章 名称

第一条 本会は東京交通短期大学同窓会と称する。

第二章 目的

第二条 本会は会員相互の親睦と福祉を図り母校発展を助成することを目的とする。

第三条 本会は前条の目的を達成するための事業を行う。

一、総会の開催

二、会報及び会員の掌握

三、本会は目的達成のための諸事業

第三章 事務局

第四条 本会は事務局を、〒170-0011 東京都豊島区池袋本町 2-5-15 東京交通短期大学内に置く

第四章 会員

第五条 本会の会員は本大学卒業生とする。

第五章 役員等

第六条 本会は、下記の役員を置き、役員会を構成する。なお会長、副会長は役員とする。

一、会長

二、副会長

三、役員

第七条 本役員の出選は下記の方法による。

1、会長、副会長は総会に於いて会員中から選挙する。

2、役員は若干名選出する。

3、総務、書記、会計は副会長より各一名以上、役員の中より各一名以上選出する。但し別に、会計を補佐する学園側担当者(東京交通短期大学事務局員)を会計補佐者として認める。

4、役員に欠員が生じた場合は、前項の規定に拘わらず会長が役員会の承認を経て、会員の中から選任することができる。

第八条 役員の任期は二年とし再任を妨げない。

尚、補欠選挙の役員は前任者残留期間とする。

第九条 役員の改選は偶数年次(西暦)に会長を奇数年次(西暦)に副会長、書記、会計、総務を選出するものとする。

第十条 本会役員の仕事は下記の通りとする。

1、会長は本会を代表し会務を総理する。

2、副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はその職務を代行する。

3、書記は本会の議事、記録を掌る。

4、会計は本会の会計を掌る。

5、総務は本会の庶務を掌る。

6、役員は役員会、定例会を組織し、会員の掌握、会報の発行、諸事業の開催、事務室の管理等会務の執行を掌る。

第十一条 本会は必要に応じて顧問を置くことができる。

顧問については、役員会の承認を

得、会長より委嘱するものとする。

第六章 会議

第十二条 本会の会議は、総会、役員会、定例会の三種とする。

1、総会及び役員会は、会長がこれを招集してその議長となる。2、総会は毎年一回(東交祭開催時)とする。役員会は年二回以上開催するものとする。

3、会長は必要を認め、又は役員の方分の一以上の請求により臨時総会及び役員会を招集することができる。

4、定例会は、役員、顧問、会員また同窓会長が特に認めたもので構成し、必要に応じて開催する。

第十三条 総会は下記の事項を定める。

一、収支決算の承認

二、予算の決議

三、本会の目的

四、会則の変更

五、役員の方選

第十四条 会議の議事は原則として出席会員の過半数の同意をもって決し、可否同数の場合は議長の方決するところによる。

第七章 資産及び会計

第十五条 本会の会費は会費寄付に関わる金品その他の収入による。

第十六条 本会の経費については備付帳簿によりその出納を明らかにし、会員の要求ある場合はこれを提示するものとする。

第十七条 本会の会計は四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わるものとする。

第十八条 本会の入会金は五千円とし終身会費とする。但し、会の性質により特別会費を徴収することがある。

第十九条 本会会計に二名の会計監査を置く。

第八章 規約改正

第二十条 本会則は総会に於いて出席会員の三分の二以上の賛同があれば改正することができる。

第二十一条 会員は住所氏名の変更その他異動ある場合は速やかに報告すること。

補足

一、本会則は昭和四十八年八月十八日より実施する。

二、本会員が本会及び東京交通短期大学の名誉を著しく傷つけた場合は、総会の決議によりこれを除名することができる。

三、本会則の一部(第十九条、会費)を平成七年度から改正する。

四、本会則の一部(第七条、役員の方3号)を平成二十一年度から改正する。

五、本会則の一部(第三条、第六条、第九条、第十条、第十一条、第十二条、第十三条)を令和三年度より改正する。

編集後記

・会員解放区の顔写真の掲載を取りやめたのは、SNS全盛のご時世だからと言う建前もありますが、編集に使っているPCのスペックが低いので、少しでも画像を少なくする狙いもあります(笑)(編集・α)

・投稿ガイドライン、敢えて「無許可で鉄道敷地内に～」の言い回しにしています。鉄道敷地内に立ち入って撮った写真を一律に禁止してしまうと、昨今流行りの鉄道会社主催の撮影会で撮られた写真も扱えなくなると判断した為です。(編集・β)